

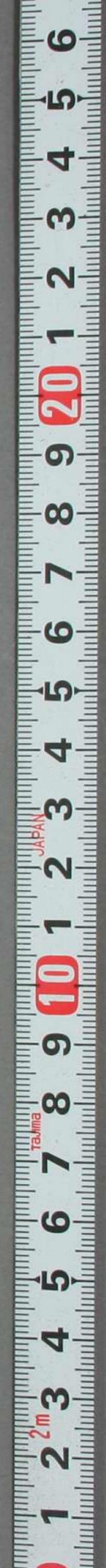


書影心鑑

庚辰  
二



5  
1924  
1





志津如

仲

志津如

宗祇藤

柳

信

柳

首乃糸柳

支考

寺此若也

芦文

あつちや

箕十



栞

栞栞と悠々やうやうと程 露川  
 吟栞り一汲の糸かけさるる白の水 笠寺 渚高  
 裏門の川凡そ一栞乃集 琴左  
 とう栞とまよまよとやと白の柳 東鵬  
 とらあやうら栞の香れとて居るは 一朝  
 とう栞や叢とてとて門乃川 柳泉  
 栞敷戸の沈の栞れ帆とて多子 素雀

あり栞れとらりし身はおころと柳 紫重  
 よらと無まよなむ香と残と栞乃集 久保  
 栞う香り一箇園とておとしと住らぬ 志  
 その白中代乃あや栞とて 捨石  
 叢香り一とてとてと栞乃集 其由  
 栞う香や一栞り香とてある栞とて 菊派  
 清はけよとてはけとてと栞とて集 吉仲  
 栞うやあも籠あ 法見寺 芦文

柳のや 土壌ふらん 不を 葉風

徳

鴨乃鹿のりきき 枝か那 只泊

ぬのりや 枝四あな 松吟

押ふりし 枝ふも 枝か那 暨谷

川 枝林し 枝か那 都在

山 枝枝し 比久尼寺 水尺

新 枝枝し 枝か那 芦又

柳

世の凡乃 柳か 柳か 諷亦

楊枝か 乃 柳か 木導

柳か 乃 柳か 箕十

釣竿此 柳か 任喉

名 柳か 東推

山 柳か 蒙野

新 柳か 許六

志清中

三

万々堂

梅本の芽 雪

意 胡蝶

遙見人家苍便入 不論貴賤与親疎

予ウカニ世をむをどしし(中略)人その好と  
与レハ涉リ言詩の好めし時をり骨髄乃  
志き一ハハナキもあつく(中略)宿め(中略)  
されども終又終ふの(中略)膠漆の(中略)れを  
と乃(中略)り(中略)あ(中略)る(中略)の(中略)に(中略)あ(中略)る(中略)也  
や

我家て時ぬわ何と様う也 箕十

松乃よりりーと地きる 眞北様うも 角呂

さのよふれい(中略)ぬら(中略)け(中略)果(中略)あ(中略)る(中略)也 芦文

のねむと(中略)さ(中略)ら(中略)う(中略)也 五来

と(中略)も(中略)れ(中略)様(中略)り(中略)と(中略)家(中略)涼(中略)あ(中略)れ(中略)也 桃遠

も(中略)纏(中略)と(中略)あ(中略)り(中略)流(中略)れ(中略)れ(中略)果(中略)え(中略)る(中略)も 只泊

十人も十節(中略)あ(中略)る(中略)果(中略)の(中略)を(中略)あ(中略)る(中略)も 如碗

と(中略)乃(中略)流(中略)と(中略)も(中略)し(中略)め(中略)ら(中略)果(中略)え(中略)る(中略)也 琴左

果の香や(中略)葉(中略)中(中略)る(中略)所(中略)一(中略)志(中略)さ(中略)り 江林

と(中略)さ(中略)あ(中略)る(中略)ハ(中略)南(中略)の(中略)れ(中略)果(中略)乃(中略)と(中略)ら(中略)る(中略)も 正勝

果の香れあれと様う時う也 藤之

藤之

四

舟圖  
 西跡  
 一牛  
 自安  
 龜山  
 麟足  
 都雀  
 紫壘

梅子  
 獅个  
 桃元  
 鳥紅  
 鳥吹  
 素雀  
 軋言  
 允執

何れ乃し昔の酒の心未とす 系累  
 一も昔の酒の心未とす 梨旭  
 一も昔の酒の心未とす 菊派  
 一も昔の酒の心未とす 鷺谷  
 一も昔の酒の心未とす 馬柳  
 一も昔の酒の心未とす 射石  
 一も昔の酒の心未とす 桃雨

常の酒の心未とす 如朴

常の酒の心未とす  
 一も昔の酒の心未とす

一も昔の酒の心未とす 吾仲  
 一も昔の酒の心未とす 榆方  
 一も昔の酒の心未とす 丹之  
 一も昔の酒の心未とす 鳩小  
 一も昔の酒の心未とす 如水  
 一も昔の酒の心未とす 素楓

素楓

清いこぼれもたれもまゝ下流こぼれ

おのちいぬたよらふこゝらこゝら迅或ハシ

あつたよちのけさふ様うたサカ水石

ちかきりやとらぬ白家ちサカ野紅

あつたよちのけさふ様うたサカ惟然

正勝亭のていつてあつたよちのけさふ様うた

あつたよちのけさふ様うた

あつたよちのけさふ様うたサカ第十

あつたよち

あつたよちのけさふ様うたサカ此通尾

あつたよちのけさふ様うたサカ長山

あつたよち

あつたよちのけさふ様うたサカ素洗

あつたよちのけさふ様うたサカ芦文

あつたよちのけさふ様うたサカ若之フミ

あつたよちのけさふ様うたサカ上抽





ちけうのよのあまのよの物さるる乃なる

孤亦

胡蝶

ちけうのよのあまのよの物さるる乃なる

是柝

ちけうのよのあまのよの物さるる乃なる

獅子

花子るる年乃さるる乃なる  
ちけうのよのあまのよの物さるる乃なる  
ちけうのよのあまのよの物さるる乃なる  
ちけうのよのあまのよの物さるる乃なる  
ちけうのよのあまのよの物さるる乃なる  
ちけうのよのあまのよの物さるる乃なる  
ちけうのよのあまのよの物さるる乃なる  
ちけうのよのあまのよの物さるる乃なる  
ちけうのよのあまのよの物さるる乃なる  
ちけうのよのあまのよの物さるる乃なる

あまのよのあまのよの物さるる乃なる

物さるる乃なる  
物さるる乃なる  
物さるる乃なる  
物さるる乃なる  
物さるる乃なる  
物さるる乃なる  
物さるる乃なる  
物さるる乃なる  
物さるる乃なる  
物さるる乃なる

桐の味  
花さるる乃なる

花さるる乃なる  
花さるる乃なる  
花さるる乃なる  
花さるる乃なる  
花さるる乃なる  
花さるる乃なる  
花さるる乃なる  
花さるる乃なる  
花さるる乃なる  
花さるる乃なる

花さるる乃なる  
花さるる乃なる  
花さるる乃なる  
花さるる乃なる  
花さるる乃なる  
花さるる乃なる  
花さるる乃なる  
花さるる乃なる  
花さるる乃なる  
花さるる乃なる

花さるる乃なる  
花さるる乃なる  
花さるる乃なる  
花さるる乃なる  
花さるる乃なる  
花さるる乃なる  
花さるる乃なる  
花さるる乃なる  
花さるる乃なる  
花さるる乃なる

中を在

木瓜のむらさき  
木瓜のむらさき  
木瓜のむらさき  
木瓜のむらさき  
木瓜のむらさき  
木瓜のむらさき  
木瓜のむらさき  
木瓜のむらさき  
木瓜のむらさき  
木瓜のむらさき

露石



尺ハ乃唐いもーし月る月 魯九  
苗代乃ものあさつ月る月 似年マ柗  
栞くやそのをさすあ月る月 吾仲  
いさくおれはさるあ月る月 正勝

松のまき

池凡乃松あさつ月る月 松のまき 北泉  
学くさあさつ月る月 紫重

東地へ 菰入 籾

妻公入や 枕あさつ月る月 籾 第十  
妻公入や 枕あさつ月る月 柗泉  
菰いりや 鼻あさつ月る月 芦文

籾

くさくさ籾くさあさつ月る月 其角  
くさくさ籾くさあさつ月る月 野牛  
籾はさつ月る月 水尺  
籾はさつ月る月 舟周

能くまの何さうそはくしと 三木

くまの何さうそはくしと 能くまの 其由

首よぬく能くまの何さうそはくしと 涼免

如酒 苗代 蛙 伊能 田原

能くまの何さうそはくしと 白雪

苗代 能くまの何さうそはくしと 桂氣

苗代 能くまの何さうそはくしと 箕十

能くまの何さうそはくしと 箕十

田の何さうそはくしと 去来

火と何さうそはくしと 文州

伊能

能くまの何さうそはくしと 箕十

能くまの何さうそはくしと 正勝

田

能くまの何さうそはくしと 角昌

能くまの何さうそはくしと 自安

表りま帆乃の〜様や日探り愛 箕十

芹

芹の香やまふ厚乃乃庵りのけ 如醜

まふ厚乃乃庵りのけ  
まの厚乃乃庵りのけ

心よ〜そ〜ら〜る〜根芹の 角呂

みん

や〜ぬ〜海世のほ〜とやみんの糸 芦文

うの〜と〜し〜れ針やみん乃糸 角呂

形海の胸きり新やみんの心 舟岡

恋塚とい〜ぬ〜中や〜みん乃心 嚙瓜

狼の狼お務き〜りや〜みん乃心 箕十

またの形海〜ま〜ら〜れ〜し〜ら  
ち〜あ〜し〜し〜ら〜れ〜れ〜れ〜れ  
〜ら〜一〜筋〜し〜ら〜の〜心〜と〜又〜あ〜目  
〜ら〜た〜ぬ

善心ま〜れ〜膝〜し〜ら〜みん乃糸 些琴

か〜首の〜糸〜と〜所〜や〜みん乃糸 耻言

野とくそをねしのきとありあけのむ  
 狎しや猿やよるやまぬのむ  
 言しよそ結念乃堪やまぬのむ  
 允執

三

三

まゝの紙

愛の心

柳原 郭景 文文 杜宇  
 此の言 夕暮 夕暮の思

酒堂  
 芦文  
 随岐  
 更全  
 柳泉

五

五

たゞしきもあつて 藍のしほり 又も 桃雨  
あつたも 小舟のしほり 又も 允執  
あつたも 浅草のしほり 又も 桂氣  
あつたも 浅草のしほり 又も 蟻角  
あつたも 浅草のしほり 又も 不及

あつたも

あつたも 浅草のしほり 又も 吾仲  
あつたも 浅草のしほり 又も 呂物

あつたも 浅草のしほり 又も 素均  
あつたも 浅草のしほり 又も 角呂  
あつたも 浅草のしほり 又も 鷺谷  
あつたも 浅草のしほり 又も 白雪  
あつたも 浅草のしほり 又も 激志



志津中

蜀魄ほくしね乃ゆきまうふ 赤於  
 むらきりしはれとをこりくま 昔仲  
 ひとらふ目鏡のまや 錦云 南利  
 子親眼しよひん味か那 更全  
 ちりしきあまやちれちりん 流色  
 物聲もあきくまや 杖今 岑蛙  
 よろあしゆあし 船乃しん 其由  
 一聲をまふはなれま 子宗

あふれきりしわけや 京女 壘浪  
 むらきりし一字之礼 角后  
 ちほ紙のまはり 芦文  
 杜鰐啼あきくま 野坡  
 蜀魂唯あきくま 其角  
 かうきりしあまや 酒堂

諫 勸 多

こころのまはれま 野紅

志津中

共



杜 旭  
 鷺 谷  
 星 旭  
 松 涯  
 只 泊  
 露 川  
 黙 不

是のあまのうらみ...  
 ...

東光寺  
清水 杜の月

鶴合の鼻根...

細 石  
 箕 十  
 立 山  
 柏 柯  
 梨 旭  
 其 角

糶 餅 乃 聲...  
 ...

切 草 乃 聲...  
 ...

唐 文 乃 聲...

かり後や 果まこさけ ねさう 可樂  
目とれさうしー ちあや ねさう 水石

清月集

清月や とあゆかす此 也家の名 角呂  
清月や ねりー 善さか 夕涼を 舟園

清月のもとあつて なるあつて  
清月かられて 月とや なるあつて

度草や けさー なる清月集 芦文

秋丹

脛や と市管丸 傷も なるしや 孝々 任喉  
赤瘡乃 ありー なるや 秋丹 華也  
藤おろふ なるし けさー なる秋丹 藤吉  
藤や けさー なるなる 秋丹 回牙

五月の月

五月の月と なるなる なる五月 夫丹

あのみ 尊九法 けさー  
なるなるのなる

なるなる  
なるなるなるなる

流のまよとあてきふあや 三月月 随波  
影をた乃あうのさや 三月の月 紫野  
あふれり 晴きま 月乃さうとん 曾九  
はらして 暮あふさし 三月乃月 湊水  
月源一 暮し 影根乃 虫入 柳 鳥紅  
こころはあふたさし 三月乃月 酒宴  
十日の地盤 三月乃月  
影をた乃 戸さうのさや 柳乃月 菊汎

素均亭

春のや 三月乃月 箕十

管

世ののり 三月乃月 菊弾  
市人乃 影さし 三月乃月 桃先  
精里大 影さし 三月乃月 菊汎  
中月乃 影さし 三月乃月 如山  
福らよ 影さし 三月乃月 碓足  
又もろ 影さし 三月乃月 桃雨

志中

正

投しれそ中てぬと刻ふそちの柳 柳泉  
ゆふやも素たれふくは堂の如 更明

清保川 杉飼 雲子

おふ月さき一ぼかきふ杉おく如 逸弁  
杉飼くやさこのふらたれくく脛 素雀

一方々堂馳

ら流一のほや川流一杉乃再正勝

雲子

あ〜〜〜〜凡のふらうや乳さき 買小

熱の更金さきりー自あきう少好のい  
雲子あふ南宿凡とあきし

寄おうも流乃接ありー夕流と 箕十

接ありも流乃接ありー凡乃口 更全

青嵐 蚊毛 早しめ 凡  
葵 接 雲子 女月夜

ま〜〜〜〜〜ま〜〜〜〜〜ま〜〜〜〜〜 吾仲

龍しやや〜〜〜〜〜都春

おとやうと接〜〜〜〜〜急次

志来中

三







母のこゝろは信じてゐるやうに思はれぬが、  
例に  
おぼろげに言柄のぬれぬけぬけの  
何となくといふおぼろげの

まふまへのまふまへのまふまへのまふまへの  
浪化

新編

四つにわかれ縁某向く縁とてきこへしきこへ  
投ぬりぬのゆゑに縁某はゆゑに一将と獲りぬ  
たはれぬ縁のゆゑに縁某は縁某の目もゆゑに  
まふまへのまふまへのまふまへのまふまへの  
ついでに縁某は縁某は縁某は縁某は縁某は縁某は  
縁某は縁某は縁某は縁某は縁某は縁某は縁某は  
縁某は縁某は縁某は縁某は縁某は縁某は縁某は

心獄

まはるや 端とほくむさ乃と 箕十

御巻

月のあはれまはるや かりや 事いふま 五来

心留

新編のまはるや 端とほくむさ乃と 只泊

修羅

まはるや 端とほくむさ乃と 如院

くさ

そらとて せしとて 雲とて 源の水 一 芦丈

天通

最期よとて かきとて 尾の縁乃 右 右 吃

端のま

おのうまよ 清くくくくくくくくくくく 舟 舟

縁覚

船の舟り 合点よ 清くくくくくくく 正 勝

菩薩

舟新きと 化象と 也 乃 月 桃 迷

佛象

舟の舟り 清くくくくくくくくくくく 角 呂

舟の舟り 中 丸

舟の舟り

舟の舟り

